グローバル通信

２０１４年度最終号

2015/3/19

NO.16

本号は、中学１年生、高校３年生、卒業生の３人に寄稿してもらいました。

図書館を使った調べる学習コンクール　英語部門　受賞レポート

中学１年山田健人

１　図書館を使った調べる学習コンクール　英語部門とは

今回で 18 回目を迎えた「図書館を使った調べる学習コンクール」は、図書館の文献を使ってまとめられたレポートのコンクールです。地域の図書館が主催する地域コンクールと、図書館振興財団が主催する全国コンクールがありますが、本校では、毎年社会 III の一学期レポートの優秀作品を、新宿区立図書館主催の地域コンクールに応募し、入賞した作品は全国コンクールに推薦されているそうです。僕は、小学生の時も海外から応募していました。

中学生・高校生が応募できる部門には、「調べる学習部門」と「調べる学習英語部門」があります。今回僕が応募したのは、「調べる学習英語部門」です。この部門は 2013 年から全国コンクールで導入され、中学生の部と高校生の部で、英語でまとめられたレポートを募集しています。レポートは 50 ページ以内で、公立又は学校の図書館を使っていること、取材が行われていること、自らの意見や経験が盛り込まれていることが条件です。「調べる学習部門」（日本語のレポート）では、まず地域コンクールに応募することになりますが、英語部門では直接全国コンクールに提出します。選考の最終段階に残った作品では、プレゼンテーションと面接が行われるそうです。残念ながら今回僕はこの段階には残りませんでした。

最終的に英語部門では、入賞者に高校生 2 名、優良賞に高校生 1 名、そして奨励賞に僕が選ばれました。

２　僕の作品

一学期の社会Ｉのレポート作品を、夏休みから 2 学期の終わり頃にかけて、内容を充実させた上で、英訳して応募しました。調べたテーマは、日本の自転車走行空間についてで、最近注目されている「自転車レーン」や「自転車道」、あるいは「自転車歩行者道」などについてです。僕は帰国生ですが、ヨーロッパの国々と比べると、日本は自転車が普及している割には自転車レーンなどがかなり少ないと感じたことがきっかけです。

東京は、2020 年のオリンピック・パラリンピックに向けて自転車走行空間の整備を進めていますが、同じくオリンピックに向けて整備を進めた都市としてイギリスのロンドンが挙げられます。

応募したレポートでは、社会Ｉで書いたレポートに、東京とイギリスの通勤圏と自転車走行空間という観点から分析する章を加えました。

日本語の文章を英訳するのは初めての経験でしたが、案の定簡単ではありませんでした。そもそも「車道」「歩道」というような基本的な言葉自体、アメリカ英語とイギリス英語では違います。ましてや道路交通法の条文を的確に英訳したりするのはかなり難しかったです。日本語のニュアンスをうまく表現することは難しいため、一語一句訳すよりは意味が変わらないようにすることを意識しました。

また、単に英訳するだけではなく、新たな資料を探したり、東京都建設局の方に取材を行ったり、実際の自転車レーンを走ってみたりするなどの工夫をしました。

３　みなさんも

学校のレポートや他教科の勉強に加えて、英語のレポートを書くことに手を広げるのは確かに大変です。特に、コンクールの締め切りが 12 月 1 日で、2 学期のレポート締め切りや期末考査へ向けて集中して勉強したいときに重なったので、苦労しました。

それでも、英語のレポートを執筆することは非常に有意義です。英語を勉強するのではなく、調べ学習を通して英語を使うという絶好のチャンスになるからです。僕は、帰国してからなるべく英語の力を保持できるように努力していますが、海外にいたときと違ってネイティヴスピーカーと会話する機会が少なく、努力の成果を発揮することは難しいです。レポートを書くことにより、英語で表現し、それを通して英語の勉強を行うことになります。

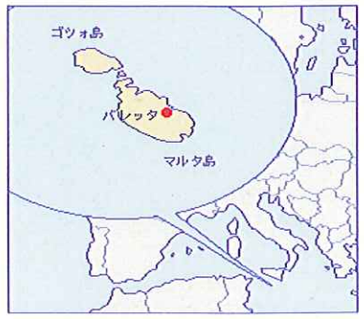
いつもの生活に物足りなさを感じているのであれば、このコンクールは非常に良い経験になります。今回のコンクールの英語部門で受賞したのは、僕以外は全員渋谷教育学園渋谷高等学校の生徒です。次回のコンクールでは、海城から多くの受賞者を出しましょう。

受験終了から卒業までの期間を有意義に

ちょっとマルタ共和国で英語使ってきました

高校３年　島貫　凌

大学受験終了により長期休暇を得たため、自分は海外研修や海外交流活動において得た知識と経験を生かすのと同時に、さらなる見分を広めようと思い短期留学することを決めた。場所はマルタ共和国。マルタ共和国は地中海に浮かぶ、淡路島の３分の２程しかない本当に小さな独立国である。第二次世界大戦中、英国の植民地であったため公用語はマルタ語および英語で、公立校において教育は初等教育からすべて英語で行われている。



留学先選定のため、まずは、留学エージェント探しである。５社程度、検討のために直接訪れ、担当者と話をした。そして HIS を利用することに決めた。理由としては対応の良さと値段である。やはり数社回って比較してみると、感覚的に気に入るエージェントがあるものだ。その他に、検討すべき点といえば、留学中のサポートであろうが、結果としては留学中どうしても日本語での対応が必要になることはほとんどなかった。

こうして、決めたエージェントに何度か足を運び、留学の内容を詰めていく。期間、滞在先、語学学校などだ。今回、自分は 24 日間、ホームステイのシングル、EC マルタ校でお願いした。これといって大きな不自由はなかったが、一つ上げるとすると、滞在形態は良く考えるべきである。自分は 18 歳であるため、マルタ共和国では大人扱いであり、夜、自室にいるとホストファミリーによくこういわれた。「若いのに遊びに行かないのかい？　友達はいるの？　大丈夫？」まったくもってカルチャーショックである。しかし、遊びに行こうにも外は真っ暗、ネオンが明るく輝いている。そこで自分は友達に連絡した。すると友達はレジデンスに招いてくれた。そう、ここでのレジデンスの重要性は自由さという以上に、人を招くことができるという事にある。留学中はもちろん知り合いはゼロだから、友達を一から作ら

ねばならない。その点、レジデンスならばホストファミリーを気にすることなく、自由に友達をよんで親睦を深めることができるのである。そうした点から、炊事洗濯の手間を差し引いても、レジデンスをお勧めする。

こうしたオプションを決めたあとは、準備をして出発日に空港へ向かうだけだ。一人で地球の裏側へ向かう緊張感が何とも言えない心地よさであった。

現地での３週間はあっという間であった。平日は、学校で英語と英会話の授業を受け、休日は上記のように友達を作って、様々な観光スポットへ行った。英文法は海城に比べるとかなり簡単であったが、授業で習った英語をすぐに使えるという環境が、英会話の練習には最適な環境であったと思う。中でも自分が苦労したのは「L」と「R」の発音の違いだ。日本人同士、あるいはネィティブスピーカーに話す場合、わかってもらえるのだが、同じように英語を学ぶ生徒同士だとまったく通じない。それでいて、向こうも発音できない音があり、それを理解するのもまた難しいのだ。こうした、ノンネイティブと話す機会というのも、今までにない面白い経験であった。ちなみに、私はこの三週間で「L」と「R」の発音をだいぶ向上させられたのではないかと思う。

海城のこれからを担う後輩諸君、海城で得たものをさらに大きく飛躍させたいと思ったら、ぜひ異文化交流へ目を向けて欲しい。海城で培った、その学力とコミュニケーションスキルを実戦投入してみて欲しい。その先には、必ず興奮と感動があることを約束したいと思う。

さらに留学する予定

大村崇寛

みなさん、お久しぶりです。グリネル大学の大村です。ここ最近忙しく、グローバル通信に原稿を送ることができていませんでした。なんだか久々すぎて何を書いて何を書いてないか忘れてしまいました…

ということで、今回は近況報告をさせていただこうと思います。

1。専攻

前の学期に専攻を心理学、副専攻を神経科学に決めました。なぜそうしたかと聞かれるとウーン…となりますが、漠然と、ヒトの心、脳、行動の関係に興味があったからです。こんなモンやって将来何の役に立つか、そんなことは分かりません。心理学の知識を直接使うことがあるかどうか、それも分かりません。ただ、勉強していて楽しいから、とりあえずはいいかなと（笑）。でも心理学だって実用的なことやりますよ！（統計学とか…）

そんなわけで、今学期は文化心理学、心理学調査法、神経科学、人類学を履修しています。文化心理学は、大雑把に言うと文化によって人はどう違うのか、について考えます。例えば、自己感において、西洋人は個人が独立的であると考えるのに対し、東洋人は他人との関係性の中で個人は成立するものであると考えます。文化心理学は、この自己感の違いが行動や認知の違いとなって表面化することを研究する学問です。はい。英語でやっていることを日本語に直すには少々僕の日本語力が足りませんね…　ともかく、文化の違いによって人の考え方はこんなにも違うんだ！　と分かることは、異文化理解への第一歩だと僕は考えます。

（ちなみに、文化心理学の第一人者は北山忍という、京都大学出身の心理学者です。興味深いですね？）

2。留学

さて話を進めると…　僕は来年の一月からデンマークに留学します！　アメリカにいるのにまたかいな、と思われるかもしれませんが、行きます！　アイオワの田舎に四年間も閉じこもっていられるわけがありません。ヨーロッパに行って勉強します！

デンマークでは認知神経科学を勉強する予定です。実際何をするかはよく分かりません！「Cognitive Neuroscience of Consciousness」という、カッコ良さそうな授業を取ります。

3。夏休み

休みのごとに海城に行っていたら、元学年主任/数学科 M 先生、体育科 S 先生、英語科 W 先生に「大村、まーた帰ってきたのか（笑）」と言われるようになってしまったので、しょうがなく今年の夏は帰国しないことにしました。

というのも、今年の夏はグリネル大学で神経科学の研究を受講とすることになったんのです--! テーマは「高脂肪食の継続的消費の、脳や行動への影響」です。肥満の多いアメリカにぴったりな研究テーマですね（笑）。この研究ではラットを使用し、最終的には脳を解剖します。この研究は 10 週間、週 40 時間かかるので、これで夏休みの大半は潰れます…　ですが、非常に楽しみです。

4。最後に

今学期は気が狂いそうになるくらい大変ですが、なんとか半分を終えてまだ息をしています（辛うじて）。これからさらに忙しくなりそうなので、二週間の春休みを満喫し、充電しようと思います（ゆっくり村上春樹でも読みますかな…）。では、また！

「ＡＩＵ米国高校生交流プログラム」参加申し込み募集

「AIU US High School Diplomats in 京都」の募集案内が来ました。今年の７月２８日から８月９日まで、「高校生外交官」として、京都を中心に合宿しながら、アメリカの同世代の高校生と交流し、日米両国の相互理解と友好親善に寄与しようという企画です。毎年全国各地から相当数の応募があり、選考も厳しいのですが、本校からは一昨年島貫君（マルタに短期留学した島貫君）、昨年は嘉悦君（グローバル通信第１４号に寄稿）が参加してています。新高２、高３を対象とします。１校から２名しか推薦できませんので、下記のような募集日程とします。申込用紙に必要事項を記入し、締め切り期日までにグローバル教育部に申し込んで下さい。プログラムの詳細及び申し込み用紙は、「ＡＩＵ米国高校生交流プログラム」のホームページからダウンロードできます。

校内申し込み締め切り	４月　９日
校内選考結果発表	４月１１日

今　後！！

グローバル教育部は来年度も様々な企画を考えております。ここにその一端をご紹介します。是非ご期待下さい。

☆　ＴＯＥＦＬ、ＳＡＴ　ＥＳＳＡＹ　対策講座の開設

☆　アジア、アフリカ諸国との交流